

平成 25 年度 第 3 回美術館セミナーの開催について

- 1 日 時 平成 26 年 1 月 26 日 (日) 午前 10 時から午後 2 時まで
- 2 場 所 茨城県近代美術館 講座室, 展示室
- 3 参加者 県内の小中学校, 高等学校, 特別支援学校の教員及び一般 11 名
- 4 活動内容
 - 10:00 受付 (地階講座室)
 - 10:00~10:10 オリエンテーション (日程・作家派遣事業について)
 - 10:10~10:50 (1) 事業報告: 「ぼくの色, わたしの色~本当の“緑”を探して~」
<発表者>古河市立駒羽根小学校 光山 明 先生

○作家派遣事業を実施した学校担当者からの事業報告を行った。ワークショップの内容だけではなく、事前の実態調査や事後の児童の変容などについても分析し、PP 資料を使って具体的に発表した。「今の子どもたちに本当に必要なこと」「ぜひ授業に生かしたい」「職員研修でも活用したい」などの感想があった。



- 10:50~12:00 (2) ワークショップ体験: “緑”を使って、平面から立体へ展開する。
<講師>内海 聖史 氏 (画家)

○内海氏のコンセプトをもとに、ワークショップの内容を今後の授業に生かすために、“どう展開したらよいか”それぞれの参加者に提案してもらう形で進めた。一人一つずつテーマを決めて、最後にアイデアを発表しあった。「より多くのアイデアが出てとても参考になった」「作ることの楽しさを感じた」「作家の方の指導を直接受けることができ、貴重な体験をした」など、参加者は十分な成果を得られたようである。



- 12:00~13:00 (3) 諸連絡・アンケート記入, 昼食
- 13:00~14:00 (4) 第 8 回現代茨城作家美術展

○今回は、実施時期も年度末に近いいためか参加者が少なかった。アンケートで、2 月初旬の方が学校の現場としては参加しやすいとの感想があったので、次年度は開催時期を検討したい。このようなワークショップを自校でも実施したいと、来年度の事業計画について問い合わせがあった。また、開催文書が上司のところでは止まっている場合が多いとの感想もあったので、宛先の欄に学校長名だけでなく、図工美術主任 (担当者) などと、あえて明記することも必要であると感じた。

普及事業の中でも、作家派遣事業は年度当初から講師依頼、実施校の募集、スケジュール調整など、年間を通しての大きな事業である。この事業のよさは、児童生徒だけではなく、職員や学校現場そのものに対しても有意義なところだ。学校現場では、まだまだ図工美術に力を入れることへの抵抗があることはいなめない。しかし、この事業を通して、子どもにとって本当に必要なものは何か再確認し、子どもの変容から学校現場の意識が変わるきっかけとなっていることは間違いない。

今後も、美術館がどのように学校と関わっていけばよいのか、地域の中でどんな役割を担っていけばよいのか、考えていかなければならないと感じた。